大阪YMCA

みつかる。つながる。よくなっていく。

No.794 2026

YMCA 大阪青年 11

2026年11月1日発行
1916年6月1日創刊
発行 / 小川 健一郎
編集 / 大阪YMCA 広報室
〒550-0001
大阪市西区土佐堀 1-5-6
Tel 06-6441-0894
Fax 06-6445-0297



「共に生きるために」
― アジア学院の実践 ―

私が初めて「アジア」と出会い、「アジア」を体験したのは大学時代、インドネシアに滞在した時でした。1972年から1年間、社会福祉法人日本キリスト教奉仕団に事務局があった国際キリスト教青年交換（ICYE=International Christian Youth Exchange）プログラムでインドネシアに派遣されました。帰国後、ICYEの帰国生の会がアジア学院で開催され、アジア学院と初めて出会いました。その後、東京YMCAに奉職してからは、先輩主事であった中原真澄さんが始めた「アジア学院ワークキャンプ」を引き継ぎ、キャンプリーダー、中高生キャンパーと毎年のようにアジア学院を訪れました。ワークキャンプでは参加者を「南の国のグループ」と「北の国のグループ」に分け、1日同じ農作業をし、「南」と「北」の平均カロリーで食事をして感想を話し合う「南北格差の体験」学習を実施しました。私にとってアジア学院は「アジアの声」を聴くことができ、「アジアの臭い」がし、「アジアの食」が味わえる場所となりました。「アジアと共に生きる」大切さを教えてくれたこの原体験は、45年以上も続き現在に至っています。

アジア学院は、1973年にアジアの農村指導者を養成する専門学校として栃木県西那須野に設立されました。スクールモットーは「共に生きるために」(That we may live together)です。設立当初から、発展途上国と言われる地域から毎年、農村指導者、コミュニティーワーカーを約30名招き、9ヶ月の研修を行っています。授業を含めアジア学院での公用語は英語です。学費などの運営費は主に国内外の教会、団体、個人からの寄付で賄っています。現在は、参加者の多くがアジア、アフリカの出身で平均年齢は25～45歳です。それぞれの出身地域で農村開発に携わっている経験豊かな人たちです。また、全員が海外に留学できるような裕福な階層には属してはおらず、国費留学などで招聘されるようなエリートでもありません。多くの参加者は貧しい農村地域の、中にはその村落から一度も出たことがないような人々が呼び集められます。アジア学院の最大の特徴は自らの農場で有機農法によって自分たちの食べる食料をほぼ100％自給していることです。アジア学院は、農業の知識や技術を習得する場に留まらず、「共に生きる」ための、「知」と「体験」を職員、研修生、ボランティアたちで共につくり上げていく学び舎です。前校長の荒川朋子さんはアジア学院を「教師も生徒もいない学び舎。共に生きることが必修科目の学校」と呼んでいます。「ひとつの所で、共に食し、共に働き、共に学び、人々に仕えるために共に準備をする」ことがアジア学院の目的です。アジア学院は2023年に創立50年を迎えました。卒業生は1,350名を超えました。次の50年に向けて、「土からの平和」、「フードライフ」、「気候正義」などのビジョンを掲げ、「農村の未来のために共に学ぶ」働きを進めています。

1973年の設立の時から大阪YMCAはアジア学院を支援し、大阪での研修を受け入れています。今年度も約22名のアジア学院の研修生は、フィールドスタディを通して、大阪のまちにあるさまざまな社会や人権の課題について共に学ぶ機会が与えられています。大阪YMCAの変わらぬご支援に感謝をしたいと思います。



学校法人アジア学院理事長
日本YMCA同盟会長
学校法人大阪YMCA理事
やまもと としまさ
山本 俊正

＊アジア学院の大阪研修プログラムには、大阪YMCAクリスマス献金が用いられています。

■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み、平和で公正な世界をめざします。

2026年度韓国スタディツアー報告
～国境を越えて平和を育むピースメーカー～

YMCA学院高等学校

YMCA学院高等学校では、大阪YMCAの使命および日本YMCA基本原則に基づき、次世代を担うユースによる日韓の平和構築を目的に、9月2日（水）から2泊3日で韓国スタディツアーを実施しました。「事前学習会・現地での学び・ふりかえり会」の一連のプロセスを重視した本ツアーは今年度で3回目を迎え、大阪本校のほか和歌山・東京の連携校から計19名の生徒（ヨヤン）が参加しました。

現地では、ソウルYMCAや高陽市の教育機関の全面的な協力のもと、大変有意義で充実したひとときとなりました。交流会では地元の中高生30名や教員が参加し、言葉の壁に苦戦しながらも、翻訳ツールや身振り手振りを駆使してコミュニケーションを図る姿が印象的でした。「10年後にありたい社会の姿」「環境問題」「AIの活用」「日韓の文化の類似点と相違点」などを主題に意見を交わし、現在もSNS等を通じて国境を超えた親交が続いています。

帰国後のふりかえり会では、語学学習や韓国への関心の高まりにとどまらず、「日本にいる外国の方を取り残さず、困っていたら助けてあげたい」や「平和な世界を実現するには、直接人と関わり、知ろうとすることが大切だと感じた」といった、来日して困っている人へのサポートやボランティア活動などの具体的な社会貢献への意欲が多く語られました。異文化交流を経て心を通わせた生徒たちは、自らの身近な足元から平和を創り出すピースメーカーとしての自覚を深めています。

今後も国や宗教を超え、地球市民として手を取り合い、共に支え合える持続可能な社会の実現をめざしてまいります。

YMCA学院高等学校
事務長　林（はやし） 貴子（たかこ）







ふれあいキャンプ　2026 夏

大阪YMCA ユース事業部

夏休みの様々なプログラムを終えてから数カ月が経とうとしています。今年も多くの活動を通してたくさんの子どもたちと出会うことができました。時間が経過した今でも、「みんな元気にしているかな」と、当時の光景とともに子どもたちの顔を思い浮かべることがあります。

そうした思い出の一つに、家庭養護促進協会と協働で実施している「ふれあいキャンプ」でのエピソードがあります。このキャンプは、里親と子どもたちの関係を支えるとともに、里子や里親それぞれが同じ境遇の仲間と出会い、孤立を防ぐことを目的に1978年から毎年続けられているものです。

今年はYMCA阿南国際海洋センターにて2泊3日の日程で行い、小学1年生から高校2年生までの参加者32名とともに、カヤックやカヌーなどの海洋アクティビティを楽しみました。

2日目の夕方には、子どもたちやスタッフ、ボランティアリーダーみんなで大きな円を作り、スイカ割りを行いました。「スイカ割りたい人！」と声をかけると、小学生10名ほどが元気よく手を挙げてくれ、そのうち6名が順番に棒を振って見事にスイカを割り、全員でおいしく味わいました。




しかしその傍らで、ひとりの男の子が静かに涙を流していました。理由を聞いてみると、どうしても自分でスイカを割りたかったとのこと。もう少しで順番が回ってきそうだったところで、先にスイカが割れてしまったのです。彼は「楽しみにしていたのに……こんなキャンプ、もう来ない！」と悔しさと落胆をあらわにしていました。



ちょうど次年度のキャンプについて家庭養護促進協会のスタッフと話していたこともあり、私は落ち込む彼の目を見て「来年のスイカ割りは、一番にやろうね」と語りかけました。私自身が次年度、現場で直接その約束を果たせるかどうかはわかりません。けれど、この約束は、次の夏への「大切な引き継ぎ」の一つだと感じています。

帰り道のバスが解散地に近づく頃、車内からは「また来年も来る？」という子どもたちの声が聞こえてきました。グループリーダーで社会人となってもここ数年参加してくれているユースボランティアリーダーOBが「もちろん来るよ！！来年も元気に会おうね」と笑顔で応えている姿がありました。子どもたちと交わした小さな約束をこうして毎年大切にしてくれているユースボランティアリーダーOBたちの存在は、この活動を温かく照らし続ける大きな支えとなっています。

「またね」――そのたった三文字の短い言葉には、再会を信じる強い気持ちと、ここが自分たちの居場所であるという確かな絆が込められています。あの日交わされた「またね」の約束が次なる夏へと受け継がれていくように、これからも子どもたちの成長を見守り、温かな絆を紡ぐ「出会いと語らい」の場を創り続けていきたいと思います。

大阪YMCA ユース事業部
責任者補佐　菅（すが） 秀晃（ひであき）

＊この活動には、大阪YMCAクリスマス献金が用いられています。

傾聴ボランティア　「出会いと語らい」から生まれた新しい一歩

YMCAサンホーム

YMCAサンホームには、入居者さまやデイサービスご利用者さまと対話を楽しむ「傾聴ボランティア」の皆さまが活動しています。日々の生活の中で「誰かに話を聞いてほしい」「この気持ちを共有したい」と感じる思いは、どなたにも共通するものではないでしょうか。

会話のテーマは、ご自宅での生活や地域での出来事、施設での生活の様子など多岐にわたります。活動開始当初は、ボランティアも「どこまで踏み込んでよいか」と試行錯誤があり、利用者さまも「職員が気を悪くしないか」といった緊張感が見られることもありました。しかし、ボランティアの皆さまがお一人おひとりの声にじっくりと耳を傾け続けたことで信頼関係が育まれ、今では話が尽きないほど賑やかな時間となっています。

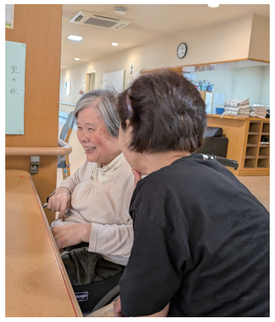
人生の先輩からの経験談に、ボランティアが「生活のヒントをもらった」と気づきを得ることも多く、お互いにとってかけがえのない「出会いと語らい」の場になっています。



この活動は、新しい取り組みのきっかけにもなっています。ある入居者さまの「歌が好きで昔は合唱クラブにいたのだけど、ここでクラブを作れないかなぁ？」という一言から、実際に「合唱クラブ」が誕生しました。手探りのスタートではありますが、「施設のイベントで歌いたい！」と発表の場を思い描きながら笑顔で話される姿がとても印象的です。

傾聴ボランティアは、利用者さまの小さなつぶやきや願いをやさしく受け止め、職員へとつなぐ大切な「架け橋」でもあります。これからもボランティアの皆さまとともに、会話を通じた温かいコミュニティの輪を広げてまいりますので、ご興味のある方は、YMCAサンホーム（TEL：06-6787-3733）までお気軽にご連絡ください。

YMCAサンホーム
施設長　石川（いしかわ） 慶子（けいこ）

小さい秋を見つけた！

YMCA松尾台こども園

YMCA松尾台こども園は自然環境に恵まれ、秋は神様からの恵みや実りを五感で感じることができる季節です。

戸外に一歩踏み出すと、足元にはきれいに色づいた葉。遠くを見渡すと、赤や黄色に色づいた木々が目に入り、柔らかな日差しが子どもたちの顔を照らしてくれます。

子どもたちは「小さい秋」を見つける名人です！散歩に出かけると、道の端に落ちているどんぐりやまつぼっくり、珍しい木の実などを、保育者よりも早く見つけ、「先生、見て！」と嬉しそうに見せてくれます。

手に持ちきれないほど見つけるので、牛乳パックで「お散歩バッグ」を作って出かけます。時間を忘れるほどどんぐり拾いに夢中になり、お散歩バッグには入りきらず、大きなビニール袋がいっぱいになるほど集めることもあります。

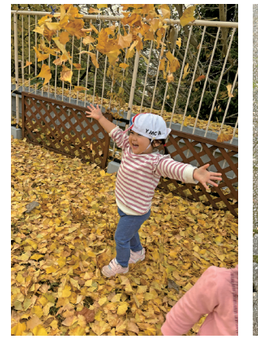
お迎えに来られたお家の方に、「これ見て！」と目を輝かせながら見せる子どもたち。ビニール袋いっぱいに集めたどんぐりを見て、お家の方も驚きながらも、「どんぐりご飯ができそうですね」と笑い合ったことも、秋の嬉しかった思い出の一つです。

大人にとっては一つのどんぐりでも、子どもにとっては大切な宝物です。これからも、子どもたちの「見つけた！」や「嬉しい！」という気持ちを大切にしながら、豊かな感受性を育んでいければと思います。

私は今年度の4月からYMCAかわにし保育園に異動となり、初めての秋を迎えます。YMCA松尾台こども園より少し都心にある園で、子どもたちとどんな秋を見つけられるのか、今から楽しみにしています。子どもたちと一緒に季節の変化を感じながら、たくさんの「見つけた！」に出会いたいと思っています。

YMCAかわにし保育園
園長　松本（まつもと） 祐香吏（ゆかり）




カタ・ラッテ 17杯め

このコーナーは、Yボランティア（会員）・賛助会員のみなさまの思いを綴るコラムコーナーです。

僕は今年で87歳になる。人生は出会いである。本当に不思議だなあと思う。今回はフォークシンガー高石ともや（尻石友也）さんとの出会いについて記す。

フォークシンガー高石ともやさんと大阪YMCAとの繋がりについて、フリージャーナリストの土屋康夫著の『うたは心のパンである－高石ともやとゆかりの人びと－』に少し紹介されている（出版：ゆいぽおと）。僕が高石ともや（尻石友也）さんに会ったのは大阪YMCA青年成人部の主事をしていた1966年の5月下旬である。7月に六甲のYMCAキャンプ場で開催するYMCA青年キャンプの募集ポスターを大阪YMCA会館1階の土佐堀通側で貼ろうとしていたとき、青年が僕に「キャンプに興味がありますが、参加できますか」と話しかけてきた。僕は「誰でも参加できるよ、よかったら参加しませんか」と話した。そして7月、阪急六甲駅前に彼の姿があった。2泊3日の六甲YMCA青年キャンプが始まった。用意していたキャンプソングの歌より、尻石友也（高石ともや）さんの歌う「想い出の赤いヤッケ」「ベトナムの空」などの歌に僕たち若者は圧倒された。それが彼との出会いであった。このキャンプに、後に結婚する当時社交ダンスクラブの会員であった辻野光子さんも参加していた。

想い出は尽きない。

大阪YMCAアンバサダー、元スタッフ
真嶋（まじま）　克成（かつしげ）

インフォメーション

大阪YWCA・関西韓国YMCA・大阪YMCA 合同祈祷週集会2026

テーマ：“Called for Such a Time as This”
Leadership is influence, and everyone has it.
「このような時にあって、使命を与えられること
～リーダーシップは影響力。それは誰もが持っている～」

毎年、世界中のYMCA・YWCAに連なる人々が1つのテーマをもとに心をあわせ、祈りの時を持つ世界YMCA/YWCA合同祈祷週集会を開催しています。前半はテーマに沿った祈りのひとときを、後半の交流会では各Yの活動報告を行う予定です。どなたでもご参加いただける集いですので、皆さまお誘いあわせの上、是非ご参加ください。

日　時：2026年11月9日（月）18：30～20：30
場　所：大阪YMCA　10階101号室（大阪市西区土佐堀1-5-6）
参加費：無料
※オンライン配信は予定しておりません。
※開催時間・開催場所に変更が生じた場合、改めてお知らせいたします。

【お問い合わせ・お申し込み】
大阪YMCA　本部事務局
TEL：06-6441-0894
E-mail：info@osakaymca.org

こちらの
QRコード からも
お申し込みいただけます▶
11月3日（火・祝）まで

早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時（毎月第3金曜日予定）が持たれています。YMCAのさまざまな場で活動されている方々にお話しをいただき、人生の歩みを分かち合う恵みの時としています。

第391回

日時：2026年11月20日（金）7：30～8：30
証し：入江（いりえ）　保夫（やすお）さん（元大阪YMCAスタッフ）
場所：大阪YMCA会館　10階チャペル（大阪市西区土佐堀1-5-6）
※中止の場合は大阪YMCAホームページ「NEWS　新着情報」でお知らせいたします。

【お問い合わせ】
大阪YMCA　本部事務局
TEL：06-6441-0894
E-mail：info@osakaymca.org

大阪YMCA大会2026

～つながる想い、ひろがる幸せ～

日時：2026年11月23日（月・祝）13：30～16：00
12:00～交流プログラム開始！
ミッションゲームや演奏、グッズ販売などもあります！
13:00～受付開始
場所：大阪YMCA会館　2階ホール（大阪市西区土佐堀1-5-6）

大阪YMCAのYボランティア（会員）や大阪YMCAに関わる全ての方が集い、ワンチームとしてつながる日です！
今年度は、一人ひとりの想いや小さな幸せがつながり大きくひろがっていくことを願ってプログラムづくりをしています。いろいろな世代や立場の異なる人たちが集い、共感や笑顔のあふれる時間をともに過ごしましょう！
皆さまのご参加をお待ちしております。参加申込方法は下記QRコードから。プログラム詳細については、大会専用ホームページやSNSをご覧ください。

プログラム予定
□永年継続会員表彰・特別感謝など の表彰式
□YMCA活動紹介・体験（最大6ブース出展予定）
□参加者交流ミッションゲーム
□水都国際中高軽音楽部によるパフォーマンス
□オリジナルグッズ、Yグッズの販売



【お問い合わせ】
大阪YMCA　本部事務局
TEL：06-6441-0894
E-mail：info@osakaymca.org

大会専用HP　参加申込フォーム 11月13日（金）まで　Instagram　Facebook

「写真で出会う、パレスチナの日常」

～高橋美香 写真展／大阪YWCA共催～
パレスチナの日々の暮らしを伝える写真を展示します。

日時：2026年11月23日（月・祝）～27日（金）
場所：大阪YMCA会館　1階ロビー（大阪市西区土佐堀1-5-6）

ユースリーダー安全支援金へのご協力に感謝申し上げます。

（2026年9月度報告・敬称略）

浅野 奈保美	川良 昌宏	名越 秀佳	望月 強
足立 七海	木田 泰之	新田 亜有子	山内 淳子
新井 重吉	小島 宏樹	長谷川 洋一	山形 浩一
石井 種男	芝田 光雄	濵口 加奈子	山﨑 憲
岩井田 二千花	清水 真一	日浦 ルミ	山﨑 優衣
榎本 房代	清正 佳江	福田 紗都	山本 春子
大阪河内ワイズメンズクラブ	武田 龍一	藤井 敬子	
大藪 暢子	塚本 恵加	丸尾 欽造	
粕谷 和彦	堂本 隆子	丸尾 初子	

皆さまのご協力により、総額355,673円、189件（9月30日付）の募金を集めることができました。感謝を持ってご報告させていただきます。

会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

（2026年9月度報告・敬称略）

【継続会員】	小西 和子	長谷川 ゆかり	【継続賛助会員】
石原 福造	坂西 卓郎	松本 三枝子	大志野産業株式会社
植野 正弘	澄川 菊代	吉川 佐和子	株式会社バーナル
大西 可奈子	津田 晃男	吉川 尚志	
葛島 経生	則武 秀尚	和田 早苗	

大阪YMCAホームページ　ボランティアスクエア　大阪YMCAゼロヒャクムービー

Printed with UV Ink VOC Free
FSC ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C013086